

# TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社 様

## メール誤送信防止ソフトを活用し、 ヒューマンエラーによる情報漏えいのリスク低減を実現

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社(以下、TDCソフトウェアエンジニアリング)様はメール誤送信防止製品「FUJITSU Security Solution SHieldMailChecker 誤送信防止」の導入により、メール誤送信による情報漏えいリスクの低減と添付ファイル送信時の作業効率向上を実現しました。

### 導入背景

- 人的運用によるメールセキュリティの形骸化を払しょくしたい
- 既存環境にできるだけ手を加えず、メール送信作業を効率化したい

### 導入効果

- メール誤送信防止製品の導入により、誰もが同じレベルでメール送信時のセキュリティを確保  
ヒューマンエラー起因のメール誤送信による情報漏えいのリスク低減を実現
- クライアントソフトウェアのため、既存環境に手を加えることなく短期で導入可能  
直観的にわかりやすい操作で、添付ファイル送信の作業効率向上を実現

### 導入の背景

「メール誤送信防止に本気で取り組むならツールの導入が有効ではないか」そこから始まりました

TDCソフトウェアエンジニアリング様は50年を超える長きに渡り、システムインテグレーションならびにコンピュータシステム全般のコンサルティング・構築・運用等を通じ、お客様に安心・安全なICTサービスを提供しています。お客様に信頼されるパートナーであるため、日ごろから社員に対するセキュリティ教育や、セキュリティ意識定着のための啓蒙活動など各種インシデント対策を実施しています。

TDCソフトウェアエンジニアリング様では技術情報やお客様の個人情報等をメールでやり取りすることが多く、誤送信による情報漏えい防止として、社外に添付ファイルを送信する際はZIP形式で暗号化し上長承認を得るなどの対策を行っていました。しかし、ZIPファイルの暗号化は手動、上長承認もメールソフトの標準機能を利用していたため、人手による運用の形骸化が懸念され、より実効性の高い対策としてメール誤送信防止製品の導入検討が始まりました。

### 導入の経緯

スモールスタートから全社展開へ。社内への影響を確認しながら段階的に導入

製品の選定にあたり重要視したのは、社内に定着しやすいことと、既存システムへの影響が少ないことの2点です。SaaS型サービスも含め複数製品の比較検討を行うなか、目に留まったのが「SHieldMailChecker 誤送信防止」でした。本製品の導入に関わった業務推進本部 情報システム部 部長)石井 茂氏は語ります。「ツールを利用することでメール送信時の作業がワンクッション増えるなど手順が煩雑になると社内に浸透させるのは難しい。その点『SHieldMailChecker 誤送信防止』は、操作画面がシンプルでわかりやすく、直観的に操作することができるためストレスを感じません。これなら社員にも定着するのではないかと感じました。また、クライアントソフトウェアのため、既存の社内システムへの影響が少なく、スモールスタートが可能であることも決め手となり『SHieldMailChecker 誤送信防止』の導入に至りました。」



2014年7月、まずは、情報システム部や総務部などの間接部門に100ライセンスを導入、約1ヶ月という短期間に評価まで完了させ、運用を開始しました。その後、毎回50～100ライセンスずつ計5回に分け、2015年8月までの約1年間で本社の全部門に段階的に導入していきました。業務推進本部 情報システム部の吉田 和彦氏は語ります。「お客様先に常駐するSEはお客様環境により使用するメーラーがそれぞれ異なるので、当初はどのようなメーラーにも対応できるSaaS系の製品を検討しましたが、結果的に操作のわかりやすい「SHieldMailChecker 誤送信防止」を選定して正解でした。クライアントソフトなので既存環境に手を加えることなく短期に導入でき、検証作業にかかる工数を削減できたのは私たち情報システム部にとって大きなメリットです。さらに、社内への影響や効果を確認しながら必要なライセンス数だけを購入できたので、予算の調整も順調でした。」

導入の効果

「ツールを使うと手間が増える」これは完全な思い込みでした。社員に負担をかけることなく、安全性と生産性の向上を実現

気になる社員の評価ですが、法人システム事業本部 営業部 担当課長代理)金子 勝洋氏は、こう語ります。「当初は警戒心もありましたが、使ってみ



TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社  
法人システム事業本部 営業部  
担当課長代理 金子 勝洋氏

て宛先確認の手順が増えた以上のメリットを感じました。手作業で行っていた添付ファイルのZIP暗号化が自動化されたうえ、パスワード通知メールも自動送信できるので添付ファイルを送信する際のメール作業の生産性が上がり、暗号化の漏れもなくなりました。さらにパスワード通知のメールも送信確認を行うため、万が一添付ファイルの送信先を間違えたとしても、ここで気づき送信を中止することで情報流出を防ぐことができます。2段階で宛先確認を行うことに慣れた今は、むしろワンクリックで重要な情報を含む添付ファイルを送信していたことに危険性を感じています。」

セキュリティ対策を実施すると、ひと手間増えることが多く、安全性確保と引き換えに業務の生産性を下げるイメージを持たれることが多々ありますが、セキュリティ意識の根付いているTDCソフトウェアエンジニアリング様では先行導入した部門の話を聞いた社員が自部門への導入を希望するケースもあったと言います。「送信直前の確認画面でヒヤリハットによる誤送信を防ぐことができる、という効果以上に、メール送信に対する社員の意識が高まったことは収穫です。添付ファイルの間違いや、CC,BCCの指定誤りがないかを隣席の社員と自発的に相互確認を行うようになりました。最も懸念していた社内への定着化についても、シンプルな操作画面のため特別な教育を行う必要はなく、手順書を用意するだけでスムーズに浸透していきました。」(吉田氏)



TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社  
業務推進本部 情報システム部  
吉田 和彦氏

会社概要

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

所在地: 〒151-0053

東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル

事業内容: システムインテグレーションならびにコンピュータシステム  
に関わる全般のコンサル・構築・運用等

創業: 1962年10月16日

従業員数: 1,282名 (2015年4月現在)

ホームページ: <http://www.tdc.co.jp/>

※記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。  
※記載の内容は、2015年12月現在のものです。  
※記載された情報は、予告なく変更することがあります。

製品紹介ページ  
<http://www.ssl.fujitsu.com/products/network/netproducts/shieldmail/>

今後の展望

ヒューマンエラーを如何に減らすかが永遠の課題

今後、TDCソフトウェアエンジニアリング様は、お客様先に常駐する社員のパソコンにも可能な限り「SHieldMailChecker 誤送信防止」を導入し、更なる展開を図る考えです。「優れたツールがあっても、インシデントをゼロにすることはできません。いかにヒューマンエラーを減らすかが重要になってきます。当社ではセキュリティ強化月間や啓蒙会議などのほか、朝礼やポスターなど日常的に意識付けを行っています。」(石井氏)



TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社  
業務推進本部 情報システム部  
部長 石井 茂氏

TDCソフトウェアエンジニアリング様はヒューマンエラーに起因するセキュリティインシデントを減らすため、今後もメールセキュリティをはじめ効果的な施策を積極的に取り入れていく方針です。富士通SSLはTDCソフトウェアエンジニアリング様のセキュリティ対策を支援するとともに、本製品を企業や自治体に広く提供していきます。



【「SHieldMailChecker 誤送信防止」の送信確認画面】

お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ(富士通SSL)

お問い合わせ総合窓口 E-mail: [ssl-info@cs.jp.fujitsu.com](mailto:ssl-info@cs.jp.fujitsu.com)

〒211-0063 川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉タワープレイス  
<http://www.ssl.fujitsu.com>